

(短報)タンザニア LNG プロジェクト交渉再開

(各社HP、Platts Oilgram News、International Oil Daily 他)

- タンザニア LNG は 3 つの深海鉦区が抱えている推定埋蔵量 35Tcf のガスを、南部 Lindi 港付近の年産 1,000 万トンの液化プラントで液化・輸出する計画のプロジェクトである。
- 参加する IOC (Equinor、Shell 他) はタンザニア政府との間で、上流、中流、ローカルコンテンツの財政、法律、規制の枠組みを主な協議内容とする Host Government Agreement (HGA) を締結することが最終投資決定の条件としている。交渉は 2019 年に Magufuli 前大統領の指示のもと、PS 契約の見直し作業に着手したことで中断されたが、2021 年 11 月に交渉が再開していたことが明らかとなった。副大統領在任中から外国投資の受け入れに開放的で、TLNG プロジェクトの進展に肯定的な Hassan 大統領の就任が、交渉再開に作用したようだ。
- タンザニア政府は今後 6 カ月以内の HGA 締結を目指している。しかし HGA を締結するためには財務条件をより IOC に有利にする必要になる。その点、Hassan 大統領の政治的手腕と財務条件を含む IOC との交渉の舵取りが重要な要素になるだろう。

1.タンザニアのガス開発の概要

(1)タンザニア LNG プロジェクト

(i)概略

タンザニア LNG (TLNG) は、Equinor が操業する Block 2 (推定埋蔵量: 約 20Tcf) と Shell が操業する Block 1、4 (推定埋蔵量: 計約 16Tcf) の、発見済みガス田が存在する 3 つの深海鉦区から生産される推定埋蔵量合計約 35Tcf のガスを、南部 Lindi 港付近に建設予定の年産 1,000 万トンの液化プラントで液化し、主に国外に輸出する計画のプロジェクトである。プロジェクトの総事業費は 300 億ドルに達する可能性がある。IOC はこのプラントの最終投資決定 (FID) は、国と IOC の間で上流、中流、ローカルコンテンツの財政、法律、規制の枠組みを主な協議内容とする Host Government Agreement (HGA) を締結することが条件としている。

鉦区	オペレーター	パートナー
Block 1	Shell (60%)	Medco (20%)、Pavilion (20%)
Block 2	Equinor (65%)	ExxonMobil (35%)
Block 4	Shell (60%)	Medco (20%)、Pavilion (20%)

表 1: 各鉦区の権益比率 (各種資料より筆者作成)

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉦物資源機構 (以下「機構」) 調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

当該プロジェクトはタンザニアにとって極めて重要だ。まず TLNG プロジェクトにより、多くの雇用機会が創出されることが期待できる。また、生産された天然ガスの最大 10%が国内供給義務 DSO (Domestic Supply Obligation) により国内市場向けに供給される見通しである。これにより、タンザニアのガスによる発電量を2倍にし、さらなる産業発展に寄与することが期待される。また、生産された天然ガスの多くはタンザニア南部の Lindi 州の北部に建設予定である年間 750 万トンの処理能力を持つ陸上 LNG 施設に輸送され、欧州・南米に加え、インド洋に面し、アジア市場にも輸出される可能性がある。同国石油上流規制庁(PURA)の Charles Sangweni 長官代理も本プロジェクトの早期実現と国際市場への参入に期待している。

(ii) 経緯

2004 年以降、Ophir Energi (現 Medco Energi) と Statoil (現 Equinor) が深海部の 4 鉱区 (Block 1~4) を獲得した。2010 年以降、BG が Block 1、3、4 にファームインして以降、Block 3 以外では複数のガス田が主に Statoil および BG (2016 年 2 月 Shell により買収) によって発見されている。

Statoil は 2007 年 4 月 18 日にタンザニア石油開発公社と Block 2 の PS 契約を締結したことで、タンザニアに進出を果たした。その後、2014 年には Statoil と BG など、Block 1 と Block 4 の事業者が、同国での陸上 LNG 液化プラントに関する協力のための HoA (Head of Agreement) を締結した。ただ、同年に BG はさらなる探鉱に値しないとし、Block 3 からは撤退している。一方、Block 1 と Block 4 では、広範な探鉱活動を行った結果、液化プラントをサポートするのに十分な深海ガスが発見された。その後、Block 1 と Block 4 で計 18 本の井戸が掘削され、計約 16Tcf の天然ガスが発見され、20 億ドル以上の投資が行われた。

タンザニアの石油・ガス開発では PS 契約の枠組みが取り入れられているが、同国では 2013 年から既存の PS 契約の枠組みや経済性につき、見直し作業に着手した。この影響を受けて、HGA の交渉は 2016 年からは中止と再開を繰り返していたが、2019 年に一旦中断することとなった。その後、当該見直しの報告書が 2020 年 4 月に Majaliwa Kassim Majaliwa 首相に渡され、その後、2020 年 9 月にタンザニア石油開発公社 (TPDC) も HGA 交渉再開への準備ができていると発表した。

また、2020 年 10 月下旬に、Equinor は Block 2 のライセンスを 42 カ月延長することにつきこれが認可されたと報告したが、2021 年 1 月 29 日、Equinor は TLNG プロジェクトについて、プロジェクトの推定損益分岐価格が Equinor のポートフォリオ平均損益分岐価格である 40 ドル/bbl を大幅に上回っていたため

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

9億8,200億ドルの減損処理を行うと発表。これは、2021年2月10日に発表される2020年第4四半期決算において、E&P International部門に反映された。しかし、「TLNGの商業的、財政的、法的枠組みが実現可能となるよう、タンザニア政府との交渉を続けていく」と述べたことや、2021年初頭にはShellとEquinorがLindi港付近の液化プラント建設に関するMOUを取り交わし、現在のLNGの市場価格では43億ドルの収益を得ることができると発言するなど、TLNGプロジェクトについて前向きな姿勢を見せている。

2021年4月に、ShellとEquinorはタンザニア政府に対し、同国が計画しているLNG輸出施設に関する協議の締結に向けて直ちに行動を起こすよう促し、開発の期限は近づいていると警告していた。

2.HGA交渉の再開

以上の状況から一転して、2021年11月8日にMakambaエネルギー大臣は自身のTwitterでTLNGプロジェクトの交渉再開について公表した。同日の交渉にはShell、Equinor、ExxonMobil、シンガポールのPavilion Energy、インドネシアのMedco Energiの代表が全員出席し、政府は今後6か月以内にHGAを締結することを目指すと報道されている。また、同ツイートの中でMakambaエネルギー大臣は「この2か月間水面下で懸命に働いてきた」と述べており、交渉が少なくとも2か月は行われていることを示唆している。実際、Makambaエネルギー大臣は2021年10月21日に、EquinorのPaul McCafferty上級副社長（探鉱・生産国際部）と会談を行っている。同会談にはPaul McCafferty上級副社長のほかにもタンザニア石油開発公社の高官も出席した。加えて、2021年10月25日にはPURAが、TLNGプロジェクトの主要パートナー（国営TPDCを含む）であるShellおよびEquinorのトップと会談し、政府とプロジェクトパートナーとの間のHGA交渉の再開に先立って、LNGプロジェクトを実施するための最善の方法につき議論を行ったと報道されている。

国営TPDCのFedister Agreyプロジェクトマネージャーは11月6日、「政府は交渉に必要なすべての準備を行っており、TLNGプロジェクトにおける国営TPDCの権益を確保するつもりだ」と述べた。Equinorは、「当該HGA交渉がもし成功すれば、2030年までにLNG生産を開始できると考えている。」と述べた。

以上のようにTLNGプロジェクトについて水面下で多くの動きがあり、交渉再開に漕ぎつけることができた。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

3.タンザニア LNG プロジェクトの今後の展望

ボラティリティの高いガス市場に加え、2015年制定の石油法、2016年制定の財政法、Magfuli 前大統領が唱えた2017年天然資源法によって導入された厳しい税および契約条件等によって経済性と将来見通しがさらに困難な状況が続いていた時期もあったため、今回HGA交渉再開に漕ぎつけることができたのは非常に大きな進展だといえる。

TLNG プロジェクトの交渉再開は2021年3月に Samia Suluhu Hassan 大統領が就任したことに大きく影響を受けたと言える。Hassan 大統領は Magfuli 前大統領に比べ外国投資の受け入れについて開放的であり、2015年の副大統領在任中から TLNG プロジェクトへの関心を示し、当プロジェクトの進展には非常に肯定的であった。2021年4月には Shell と Equinor は HGA 交渉の再開を要請、Hassan 大統領も交渉を加速するよう同国エネルギー省とオペレーターを務める IOC に対して指示した。加えて、Equinor と Shell との間で開発契約が成立しない場合には、新たな投資家を探すようエネルギー省に指示している。

Equinor は、契約条件の尊重(Contract Sanctity)と安定性が「LNG 開発の成功に必要な要素」であると繰り返し述べている。このプラントの最終投資決定(FID)は、国とIOCの間でHGAが締結されることが条件となっているが、HGAの締結については「Hassan 大統領の政治的手腕」と「国とIOC側の主に財務条件を巡る妥協」が進展を左右するだろう。Hassan 大統領が LNG 開発を加速させたいと考えていることは、同国の広範な探鉱・生産活動にとってポジティブな要素であり、本プロジェクトの進展を含め、炭化水素セクターが活性化される可能性が高い。

ただし、政府とIOCはHGAの条件が合意されたとしても、LNG販売に目星がついたわけではない。TLNGは2020年代の終わりまでLNG市場の見通しの不確実性が高い中、今後買い手と資金調達に苦戦する可能性もあることから、HGA協議を迅速に妥結させなければならないが、タンザニアに残る「資源ナショナリズム」により与党タンザニア革命党(CCM)内にも世間一般にも参入企業側にとって厳しい契約条件を求める声が上がっており、Hassan 大統領は相反する意見のバランスを取りながら双方を納得させる決定を促す政治的手腕が必要となる。また、Hassan 大統領は未だ自身の所属与党 CCM から完全な支援を得られておらず、党内に内紛の種も抱えていることから、慎重に舵を取る必要があるだろう。2021年3月の政権発足以来、タンザニアのHassan 大統領は、Magfuli 前大統領派を人事改革等により、その影響力を抑制しており、これにより今後 CCM の覇権を握れるかも同プロジェクトの進展を左右するだろう。

Equinor はすでにプロジェクトの減損をしてはいるものの、経済条件をできるだけ有利なものとするよう

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

働きかけるであろうが、もしも経済性向上が見られない場合には、撤退する可能性を否定できない。加えて、Hassan 大統領の発言によると、HGA の交渉が進展しない場合、政府は IOC との間で鉱区放棄の合意に達し、他の参入企業を探す可能性がある。しかし、カタールの拡張や米国、ロシアなどの LNG プロジェクトが複数立ち上がり、国際的なエネルギー・トランジションの潮流の中で、まだ FID していないプロジェクトを適正な価格で買ってくれる買い手や資金調達先を見つけることは容易ではない。また深海ガスの開発の能力を持つオペレーターも限定的になってくる。そうすると、同国の LNG 開発は日の目を見なくなってしまう。交渉が進展しない場合、TLNG プロジェクトを FLNG 化する解決案もあるが、国内の雇用などのメリットが少ないことでタンザニア政府が反対する可能性が高いことから実現は難しい見通しであり、HGA の締結が急務となる。以上の環境下で Equinor が今まで述べてきた財務条件や契約の尊厳 (Contract Sanctity) についてタンザニア政府と IOC の双方が許容できるレベルの財務条件で合意することができるかどうか、TLNG プロジェクト進展のカギを握るだろう。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。